

## W53c SPICA 搭載中間赤外線分光撮像装置の進捗報告 (2012 秋)

片坐宏一、和田武彦、猿楽祐樹（宇宙航空研究開発機構）、左近樹、小林尚人（東京大学）、大藪進喜（名古屋大学）、ほか SPICA プリプロジェクトチーム

次世代赤外線天文衛星 SPICA への搭載を目指して設計・開発中の中間赤外線分光撮像装置の現状について報告する。

本装置は広視野撮像機能 (WFC)、高分散分光機能 (HRS)、中分散分光機能 (MRS)、そして低分散分光機能 (LRS) を持つ装置として提案を行ってきた。2011 年 5 月末より国際レビューを受けており、2012 年 5 月末によろやく、レビューの中間報告が出された。このレビューによって SPICA に必須の機能であるとされたのが 5 分角平方の視野を二つ持ち波長  $5 \sim 38 \mu\text{m}$  をカバーする広視野カメラ (WFC) とイメージスライサーを装備し波長分解能  $1000 \sim 3000$  程度で波長  $12 \sim 38 \mu\text{m}$  の同視野同時観測を実現する中分散 (MRS) 機能である。また、優先度の高い機能として波長  $12\text{-}18 \mu\text{m}$  において波長分解能  $20000 \sim 30000$  を持つ高分散分光 (HRS-L) 機能が挙げられている。一方で高分散分光機能の  $4\text{-}8 \mu\text{m}$  の部分 (HRS-S) と低分散 (LRS) 機能はオプションとしての評価になった。

レビューの最終報告は 2012 年内に出されることが予定されており、その段階で装置仕様は最終決定される。

我々はこのレビューの中間報告結果をもとに機能の絞りこみを行っており、その内容と絞り込みの理由について報告する。また、本装置はこれまで国内外の有志により、国内のチームとして開発を進めてきたが、2012 年より台湾の ASIAA を重要なパートナーとして迎え、協力して装置開発を進めていくことになった。この新しい推進体制と役割分担についても報告を行う。